

## カフェにおけるヒトの情報行動

宮川 行幸

本研究では、カフェを利用している人々の行動を分析することで、現代の情報行動の実態を明らかにすることを目的として、近年変化がめまぐるしい個人レベルの情報行動を対象にカフェにおけるヒトの情報行動について実態調査を行った。情報行動の実態調査を行った既往研究としては電車内における乗客の情報行動の実態調査などがあるものの、カフェにおいて実態調査が行われた事例は存在せず、時間の制限もなく自由に自分だけの時間を過ごすことのできるカフェにおいては、既往研究とは異なった特徴があることが予測された。

本研究では、既往研究を参考に調査用紙を作成し、実際に店舗に足を運んでカフェ利用者の情報行動の記録を行った。調査は2013年8月21日～12月9日まで茨城県、埼玉県、東京都、神奈川県、熊本県の1都4県におけるS社の延べ35店舗で行い、男性343名、女性536名の計879名の利用者についての行動実態を記録した。年齢別内訳としては19歳までのカフェ利用者は131名で全体の15%、20歳～39歳までは541名で全体の62%、40歳～59歳までは171名で全体の19%、60歳以上のカフェ利用者は36名で全体の4%であった。

男女間の情報行動の比較であるが、男性は携帯電話操作、タブレット端末操作、PC操作、携帯ゲーム機操作にあたるメディア行動が最も多く取られている行動であり、一方女性は会話行動を最も多く取っていた。また、男性は女性に比べて読書行動や筆記行動、音楽視聴を行うカフェ利用者が割合として多く、対して女性は食事を行うカフェ利用者の割合が高かった。これは、男性は一人で来店して机に向かい独自の活動を行うことを目的にカフェを利用する傾向にあるのに対し、女性は複数人で訪れて会話をしながら飲食や休憩を行うことを目的にカフェを利用する傾向にあるためだと推察される。また、年代別比較においてもカフェ利用者の行動に差があり、性別、年代別それぞれにおけるカフェの利用に対する考え方の差異が読み取れた。

また、今回の調査では、スマートフォン利用者が81.9%と、フィーチャーフォン利用者の18.1%を大きく上回る結果となった。しかし、年代別のフィーチャーフォンとスマートフォンの利用率を比較してみると、40歳未満の少年、青年層は86.3%とスマートフォンが浸透していることが分かるが、40歳以上の中年、高年層は71.4%とフィーチャーフォン利用者が上回っており、今日のメディア機器利用の動向が明らかとなった。

今回の調査はあくまでカフェ利用者の情報行動の実態を調査したまでであり、この結果が市民の情報行動全般に一般化できるわけではないものの、これまでカフェという場所でこのような情報行動の実態調査が行われた事例はないため、今回の調査とその結果は価値があるものだと考える。

(指導教員 池内 淳)